

<議題>

議題 1 「多文化都市八戸推進懇談会」について

議題 2 「平成 25 年度多文化都市八戸推進事業」について

議題 3 「平成 25 年度多文化都市八戸推進事業補助金の審査」について

●事務局

本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻になりましたので、只今から、平成 25 年度 第 1 回多文化都市八戸推進懇談会を開会いたします。会議に先立ちまして、市長から委嘱状を交付いたします。恐れ入りますが、お名前を呼ばれた方は、その場でご起立願います。それでは、市長、お願いいたします。

内海 隆（うちうみ たかし）様

嗟峨 昭彦（さが あきひこ）様

塚原 隆市（つかはら たかし）様

根城 有子（ねじょう ゆうこ）様

蛭子 賢治（ひるこ けんじ）様

柺谷 伸夫（まさや のぶお）様

米内 安芸（よない あき）様

●事務局

次に市長からご挨拶申し上げます。

●市長

平成25年度 第 1 回多文化都市八戸推進懇談会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日、委員の皆様には、ご多忙中にもかかわらずご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様には、多文化都市八戸推進懇談会の委員就任をお願い申し上げましたところ、ご快諾を賜り、厚くお礼申し上げます。

これまで、当懇談会からは、当市の多文化推進に関する事業の進め方に対するご助言のほか、新たなまちづくりの一環としての「多文化都市推進」、「アートのまちづくり」、「市民練習場の整備」にかかるご提案をいただき、第 5 次八戸市総合計画後期推進計画には、「アートのまちづくりの推進」を盛り込んだところであります。

今年度は引き続き、当市の多文化推進事業についてご助言を頂きますとともに、多文化推進のための様々な施策を安定的・継続的に実施するために、ご議論いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、当市では、平成23年 2 月に開館した、八戸の文化発信・創造拠点である「はっち」

を基点としたアートプロジェクトを展開するほか、地域資源が豊富な南郷を舞台に、地域の方々とアーティストとの協働創作を通じて地域に変化をもたらすプロジェクトに取り組むなど、アートのまちづくりを進めております。

また、今年度に入り、空き店舗を活用し、建物のリノベーションだけでなく文化活動そのものの在り方を変え、更なるブラッシュアップを目指す試みである「まちなかアートリノベーション」も動き出しました。まちなかにある「旧福年商店」を拠点に、まずは7月のオープンに向けて、建物のリノベーションを進めています。クリエイティブな活動をしたい人が集まる場、文化活動の担い手を育成する場として、多くの方々にご利用いただきたいと思っております。

今後は、各施設や市民団体との連携を深め、これまで以上にまちづくりを意識しながら、多文化都市八戸の推進に努めて参りたいと考えております。

どうか皆様におかれましては、趣旨をご理解いただきまして、今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本日は忌憚のないご意見とご助言を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶といたします。

#### ●事務局

続きまして、多文化都市八戸推進懇談会規則第5条の規定により、会長の選出をお願いいたします。本日は第1回目の会議でありますので、会長選出にあたり、市長が仮議長を務めさせて頂きたいと思っております。それでは、市長に仮議長をお願いいたします。

#### ●市長

それでは、会長が決定するまでの間、議長を務めさせて頂きます。規則では、会長は委員の中から互選によって定めるとありますが、ご意見はございませんでしょうか

#### ●●委員

内海委員を推薦します。

#### ●市長

ただいま、会長に内海委員を推薦するご意見を頂きましたが、皆様、いかがでしょうか？

#### ●委員

異議なし

#### ●市長

異議なしと認めます。それでは、会長は内海委員に決定いたします。

#### ●事務局

それでは、ただ今会長に選出されました内海会長よりご挨拶をお願い申し上げます。

●会長

どうも皆さんこんにちは。先週の土曜日ぐらいから気候が悪くて、梅雨に入ったということですが、いよいよ多文化都市八戸推進懇談会も、今期が集大成とっております。限られた期間の中で皆さんご意見いただきながら、良いものができればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●事務局

内海会長ありがとうございました。なお、誠に申し訳ございませんが、市長は公務のため、ここで退席となりますのでよろしくお願いいたします。

●市長

どうぞよろしくお願い致します。

●事務局

次に、事務局の紹介をさせていただきます。

まちづくり文化観光部長、高島 司（たかしま つかさ）です。

まちづくり文化観光部次長兼まちづくり文化推進室長、松橋 剛義（まつはし のりよし）です。

まちづくり文化推進室文化推進グループリーダー、皆川 貴司（みなかわ たかし）です。

同じく、主査の古町 有加（ふるまち ゆか）です。

同じく、主査の吉田 仁（よしだ ひとし）です。

同じく、主事の矢田 一輝（やだ かずき）です。

同じく、芸術環境創造専門員の大澤 苑美（おおさわ そのみ）です。

そして、私、まちづくり文化推進室副室長の磯島 崇男（いそじま たかお）です。

また、関係課の職員が出席しておりますので、ご紹介します。

八戸ポータルミュージアム館長の風張 知子（かざはり ともこ）です。

同じく、企画運営グループリーダーの高森 大輔（たかもり だいすけ）です。

八戸市美術館長の山田 泰子（やまだ やすこ）です。

八戸市公会堂、八戸市公民館、南郷文化ホールの指定管理者である、株式会社アート&コミュニティの代表取締役社長の類家 敦（るいけ あつし）氏です。

それでは、ここからの議事進行は、内海会長をお願いいたします。

●会長

それでは、次第に従いまして進めさせていただきたいと思っております。今日は最初の組織会でもありますので、各委員からの自己紹介を最初にさせていただきたいと思っております。日頃

皆さんが取り組まれていること等をその中に加えていただき、簡単な自己紹介をしていただきたいと思います。順番は、昨年までの委員の方々からということでよろしくお願いたします。その後、今期新たに加わった委員にお願いしたいと思います。まず●●委員、お願いします。

#### ●●委員

●●の●●と申します。私は平成18年からですので6年目になります。はちがでできる前から始まっておりますので、具体的な目標があって動いておりました。今はまだアート分野の枠組みが明確になってきていないような気がしておりますので、今年1年間、色々と議論させていただいて、「多い文化」、私は●●の立場なので、「多文化」という言葉を聞いた時に「多い文化」だと誰も思わないし、「他の文化」という意味に取られていることが非常に多いなと感じます。ですから、その辺の意味合いをもう一度、ラジオというものを通しながら話していきたいと思ひます。

そのために新たな番組を作ることになりました。7月から始めますが、民間でやっているアートと行政側でやっているアート、この場所がそうだと思いますが、全て、まちづくりのためにやっていると思うので、それらを一つの番組として3ヶ月間やってみたく思ひます。皆様のご協力をお願いしたいと思います。以上です。

#### ●会長

はい、どうもありがとうございました。それでは●●委員お願いします。

#### ●●委員

●●を仰せつかっております●●でございます。今、●●委員からもお話しがありましたが、私も●●の代表ということで、平成18年度からこの関係の委員に仰せつかって議論して参りました。

少し●●について説明しますと、6部制になりまして、文芸部から芸能部、美術部、茶道部、華道部、生活文化部となっております。年次計画でいきますと、各ジャンルの関係の方々で年間23の事業を開催しております。特に23年度は、はちがでできましてから色々と交流をしながら進めております。

今回この多文化都市で一番の問題なのは、後で議論になるとは思いますが、予算的に色々と多文化の行事をするために、市でも予算を増額していただければもっと良くなるのかなと考えながらイベントを開催しておりました。前にまとめました練習場の件もなかなか思うようにはいかないようです。少しずつ、灯りが見えてきたのかなと思ひています。

これからも皆さんと協議をして、八戸の文化向上のために一生懸命協力して参りたいと思ひておりますので、よろしくお願いたします。

#### ●会長

それでは、●●委員。

●●委員

はい、●●の●●と申します。私も随分前から携わっておりまして、私達は現代アートの立場から協力できればと思い携わらせていただいています。

今年度、美術館のご協力を得まして、8月31日から種差をテーマにした展覧会をやる予定です。よろしくお願いいたします。

●会長

それに私を加えた4人が平成18年度から非常に長い期間関わっております。今回、さらに3名の方が加わりましたので、その方々にご紹介をしていただきたいと思います。まず●●委員お願いします。

●●委員

●●といいます。音楽をやっております。実際の活動としては、ジャズのIMOというビッグバンド、それからジャズの前進の音楽でJAIGO RAG TIME バンドという2つのバンドを運営しています。創作活動としては、柗谷先生から頼まれた高校生のミュージカルがありまして、10本ぐらい企画を作っています。

希望として、2つほどプランがあるので喋っておきます。

まずひとつは、南郷のホールを使いまして、生演奏でミュージカルをやらせていただきたいということがあります。なぜ南郷かというと、比較的スケジュールが取りやすいし、キャストを3組ぐらい作っておくと毎週末にロングランでできるのではないかと思うからです。もしかしたら採算が取れるところまでいかないかもしれませんが、3組ぐらいのバンドを調達して練習を進めることは可能です。もちろん舞台や芝居はそれぞれ専門家の方のご協力いただきます。市民参加型のものです。生のオーケストラでやるというのは、仙台でもやっていないことなので、自慢になると思います。

それと、ジャズが盛んだといわれていますが、それぞれの団体の小さな活動が主なので、市民フィルの協力を得ていわゆるストリングス、弦楽器が入ったジャズというのを主催してみたいなと考えています。これは音楽家同士の繋がりにもなるかと思います。

●会長

どうもありがとうございました。よろしくお願いいたします。それでは●●の●●委員、よろしくお願いいたします。

●●委員

ただ今ご紹介にあずかりました●●です。なぜ●●に応募したのかと申しますと、ここに「多文化都市八戸推進」と書かかれています通り、是非、この名のとおり、文化都市にしていきたいなということと、それを自分達の手で推進・実現していきたいという意思がありまして応募しました。

東京での仕事が多かったのですが、海外でも活動をしておりました。私も音楽関係の仕事をしており、教えたり、演奏していました。JICAにも関わってきて、以前はフリーランスで中東関係の仕事が多かったのですが、あちらの小さい街は文化的な都市が多くて、人口が少なくても大胆な構想で、例えば、大きなサッカー場があったりします。マレーシアでは、ツインタワーの中にマレーシアフィルハーモニックオーケストラというNPOのオーケストラがあって、応募者が1,000人以上も集まって、そこから100人にしたということです。日本からの若い人達がたくさん行っています。失礼ながらまだ先進国の仲間入りをしていない国でもそういう街があるのでちょっと悔しい思いをしていました。

スケート場の構想がありましたので、私のイメージでは、あの辺りにスケートを中心に色々なビルも建てて、散策できるところがないので、東京まで行って散策してくる人もいるくらいなので、散策できるところが一部でもいいのであればすごくいいなと思います。ついでにコンサートに寄るとか、美術館で絵を観るとか、ちょっとあそこでお茶を飲もうとか、そういったところがあればいいなと思います。

車で20分も走って森に行く等という突拍子もない作り方ではなく、中心部から放射状に道が繋がっていたら、歩きやすい文化的なまちになると思います。しかも美観を盛り立てて。前に、緑の推進委員会に入っていました。緑をまちなかにもっと増やして、ベンチをもっと増やして、休めたり遊べたりするまちにしてもらいたいといったのですが、どのくらい動くのか見ていきたいなと思います。多文化都市というものをしっかり念頭に置いて、100年、200年のスパンでやっていったらいいのではないのかと思います。音楽だけではなくスポーツ文化等も含めてジワジワと作っていききたいなという意志がありまして参加することにいたしました。

## ●会長

よろしくお願ひします。それでは最後になりましたが、●●委員お願ひします。

## ●●委員

●●で●●と●●として働いております。7月9日から「南部昔コ語り部養成講座」というのを始めるのですが、昼間15人、夜10人の予定に対して、何と応募者が70人を超えました。お断りするのもし訳ないので、助手を2人頼んで、昼間45人、夜25人に増員して頑張ろうと思っておりました。方言や昔話にこんなに興味・関心を持っているというは予想外で嬉しい悲鳴です。頑張りたいと思っています。

それから去年から始めた公民館主催の「うみねこ演劇塾」は、60歳以上のシニアの方と小中学生のミュージカルを主体としたジュニアです。これも10月、11月から練習を始めまして、1月10日に発表の予定です。

それと、はっちと僕とで正部家種康さんの命日である12月6日を「南部弁の日」にしようとしておりました。その方面でも盛り上げていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

●会長

どうもありがとうございました。

すみません、自分を忘れていました。内海です。24年間八戸におりまして、3年前に青森市へ行きました。今、青森市は「音楽のあるまちづくり」を教育行政が中心になって関わっております。私も一部、顔を突っ込んでいます。八戸と少し違って、1メートル50センチぐらいの雪が積もって、今の季節は雪が全くなくなるというその落差が南部と津軽は違うかなと思っています。

いずれにしても、市長の発案で、多文化都市。最初は検討委員会だったと思いますが、それこそ●●委員がおっしゃったように、「多文化って何だ」というところから色々な議論をしてきて、なんとなく少し解ってきたところで東日本大震災が起きて、もう一度色々な意味で生き方や文化のことを考えなければならないということを経験しました。

かつて、ジュピターという曲が人々の心を支えたとするならば、東日本の曲は何だろうと考えたみたことがあります。色々な歌が出てきました。そういう意味では文化の持つ力が大きいと思いますし、それを絆という形で繋げられればいいなと思います。24年間、八戸にいましたので、今度は青森市の方から八戸を見て、やはり青森県全体がそういう文化の香りがする県になるといいなと思っています。シャレがきく都市にしていきたいと思っています。感性が育っていけばいいなと思っています。

先ほど冒頭で申し上げましたけども、今期で、ある程度のグランドデザインを作り上げて、それ以降はアクションプランにのっかって、財政的な裏付けをもって市民の文化活動に支援していくということになろうかと思っています。行政が市民の文化をどういう形でサポートするのかということに、皆さんの忌憚のないご意見をいただいて、それを集約したいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、お手元に次第と資料があるかと思っています。ナンバー5までありますね。

●事務局

このナンバーがついているものについては、補助金関係のものでございます。資料につきましては、「資料1-1」から始まりまして「資料3-5」までになります。

●会長

とりあえず「資料1-1」から始まって「1-4」まで、「資料2」は「2-5」まで、それ以降はリーフレット等パンフレット等で、その後は「資料3」ということで「3-6」までになります。揃っていませんでしょうか。

それでは早速ですけれども、次第に則りまして事務局から説明をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

●事務局

それでは、事務局からご説明します。資料1-1をご覧ください。

今年度から新たにご就任頂いた委員の方もいらっしゃいますので、改めて、当懇談会に

についてのご説明をさせていただきます。

まず、多文化の推進についてご説明いたします。一般的には「多文化」は「多文化共生」という言葉で使われることが多く、国籍や民族の違いを認め尊重し共に生きていくという意味合いがありますが、当懇談会で使う「多文化」とは、伝統文化から現代アートまで、様々な分野で繰り広げられている多種多様で特色ある市民の文化芸術活動を示しており、この「多文化」を推進することで、地域活力の創出をねらいとしています。本懇談会設置の目的及び主な役割は、多文化都市の推進に関する施策の総合的な計画の策定に関し、必要な事項や実施内容についての調査となっております。

次に、本懇談会の構成ですが、委員の定数は15名以内としております。これまでの懇談会の経緯ですが、平成18年度に、文化関係者による連絡会議として、「多文化都市八戸推進会議」が設置され、19年度には「多文化都市八戸推進のための提案書」を取りまとめて市長に提出いたしております。20年度からは「多文化都市八戸推進懇談会」となり、市が進める多文化推進施策に助言を頂いたほか、文化団体への補助金交付の審査を行っていただきました。22年度は「はちのへアートのまちづくり提案書」と「市民練習場の整備に関する提案書」を取りまとめ、それぞれ市長に提出しております。24年度には、文化施策ビジョンにかかる他都市の事例の調査など行いました。

最後に、今年度からの懇談会の進め方についてご説明します。今期の懇談会では、多文化推進を推進していくための指針やビジョンの必要性について検討する場とします。今年度の組織体制は、委員を昨年までの12名から7名といたしました。

昨年度までは、教育や福祉、観光などの様々な分野と横断的に取り組むため、様々な分野の方々にご参加頂きました。今年度は、主に文化に精通した方々をメンバーに迎え、文化施策ビジョンの検討や文化全体について議論を深める場としたいと考えております。

なお、昨年度まで当室の事業などに対し助言をいただいております、東京藝術大学の熊倉純子教授の指導のもと、まちづくり文化スポーツ観光部職員でワーキングを実施し、ビジョンについて検討を進めますが、それをたたき台として懇談会でご意見などいただきたいと考えております。

検討事項ですが、ビジョン等の調査研究や策定の検討に関するもののほか、文化団体への補助金の審査などがございます。

会議は、今年度は年3回程度を考えております。次のページに委員の名簿と年間のスケジュール、当懇談会の規則を掲載しております。2回目の会議については秋頃、3回目は来年1月頃を予定しております。

次に、多文化推進事業についてご説明します。まず、「多文化都市八戸推進事業補助金」についてご説明します。

資料2-1をご覧ください。

この制度は、先駆的・創造的な芸術文化活動に対して補助金を交付するもので、平成20年度に創設し、今年で6年目となります。徐々にこの事業も浸透してまいりまして、昨年は申請が4件、後ほどご説明いたしますが、今年度は5件申請をいただいております。

「4. 補助対象経費」(4)の会場使用料については、市公民館、南郷文化ホール、はっ



ち、八戸市美術館を利用した場合は、リハーサル含めた2日間分まで全額減免としております。

「5. 補助金の額」ですが、対象経費の2分の1または10万円のいずれか低い額としております。

「6. 補助金の交付決定」ですが、当懇談会で採点・審査をして頂き、基準点を超えたものについて、3件程度を補助します。昨年は、4事業が基準点を超え、基準点を基に傾斜配分で補助金を交付しました。

次のページは昨年までの利用実績となっております。

続きまして、「多文化都市八戸推進ワークショップ開催支援事業」について、ご説明します。

資料2-2をご覧ください。こちらの制度は、先ほどご説明した、補助金の交付対象ともなり得る先駆的・創造的な芸術文化活動の取り組み拡大や、文化活動の担い手育成を目的として、市民が実施する文化的なワークショップに対する支援制度です。こちらが今年で6年目となります。

「4.」支援の内容ですが、市公民館、南郷文化ホールはっち、美術館のいずれかを利用してワークショップを開催する場合に、会場費などの施設利用料が全額免除となるものです。こちらは、市で内容を審査しております。

次のページは昨年までの利用実績となっております。

#### ●会長

どうもありがとうございました。今の概要がご意見やご質問はありますか。

#### ●●委員

補助金というのはトータルでおいくらですか。

#### ●事務局

予算は30万円になっていまして、去年は傾斜配分でした。

#### ●会長

他にありませんでしょうか。今年度も審査をやらなければならないですね。1回貰った人達、補助を受けて実際活動した人達の生の声を聞いてみたいですね。報告は見ているようですが、一回聞いてみたいです。

#### ●事務局

審査の段階でプレゼンですか。

#### ●会長

あるいは終わった後に、やってみてどうだったかということを知りたいですね。よ

り良くするためにです。補助の対象でもらって活動した人は、やったから色々なこと言えますが、もらっていない人はなかなか言えない。そろそろ生の声を実際に聞いてみたいですね。

●事務局

補助金の対象になった団体と話しをしながら検討していきたいですね。

●会長

一種の見える化ですね。その他何かありますでしょうか。

●●委員

例えばですね、予算を5件に6万円ずつ差し上げるというのはどうなのでしょう。

●事務局

5件クリアした場合に、30万を割るということですね。

●●委員

その代わり、希望の10万円は出ないのですけれど、6万円ずつという考えはないのでしょうか。

●事務局

去年出た4件の経緯を踏まえまして、今年は提出していただいた時に、「満額は出ないこともありますけど大丈夫でしょうか」という確認はしています。出なくてもやるとおっしゃっているところと、少なくともいただければ実施できるというところもあります。

●事務局

そもそもその基準点に達しないところは補助の対象になりませんので、今回も皆様に審査していただきたいと思います。それぞれの事業が趣旨に沿っているかとか内容を確認していただいて、全て5件とも基準に達しているというような意見であれば6万円ずつ、もしくは内容によって配分に差をつける、そういった形で補助金を出していただくのは可能だと思っております。そういったことを踏まえて審査をいただければと思います。

●●

事務的な審査の基準はあるのですか。

●事務局

それはまた後で、審査のところで詳しく説明させていただきます。

●会長

いずれにしても 30 万円という枠はもう決まっています。だからある一定の基準を満たしたものに均等に配分するとか、あるいは傾斜配分するとか、あるいは「うちは申請したけれど満額の 10 万円でなければ取り下げる」ということもなきにしもあらずだと思います。今までそういう経緯はないですか。

●事務局

取り下げはありませんが、実は、昨年の 4 件の交付が決まって、その主催者の家庭の事情でどうしてもその時期に実施できないということで、やらなかった団体が 1 件ありました。

●会長

その他にございますでしょうか。なければ、具体的な中身に入らせていただきます。

●事務局

ざっと全体の事業を説明してから、また審査に戻ってもよろしいでしょうか。

●会長

そうですね。

●事務局

「3」になっておりますので、いったん、事務局から今年度の事業を説明いたします。

●会長

はい分かりました。お願いします。

●事務局

次に、「アートのまちづくり推進事業」についてご説明します。

資料 2-3 をご覧下さい。まず、事業の概要ですが、地域の様々な課題解決にあたり、「アート」的な視点を活用して、地域に埋もれた資源を掘り起こし、市民力を結集させて、まちづくりに活用しようとするものです。

これまでの経緯について、さきほど説明いたしましたものに補足してお知らせします。

平成 18 年度に当懇談会の前身となる「多文化都市八戸推進会議」が設置され、「多文化年八戸推進のための提案書」が策定されました。

平成 21 年 10 月に、市長マニフェストに「アートのまちづくり」が盛り込まれ、以後、当懇談会における検討がスタートします。

平成 22 年度に入り、財団法人地域創造の「地域文化コーディネーター派遣モデル事業」により、東京藝術大学の熊倉純子教授を派遣いただき、助言をいただきながら具体的な事

業を進めてまいりました。

平成 22 年 9 月に、当懇談会にて「はちのへアートのまちづくり提案書」を取りまとめ、市長に提出し、10 月には第 5 次八戸市総合計画後期推進計画に「アートのまちづくり」が盛り込まれております。

平成 23 年 4 月には、「市民練習場の整備に関する提案書」を策定しました。

「3. 25 年度の事業内容」について、主なものをご説明します。1 つめは、「南郷アートプロジェクト」です。平成 23 年度から実施しております。

地域の中核となる南郷文化ホールがあり、地域資源も豊富な南郷区において、アートの力を活用し、地域に埋もれた資源の掘り起こしや市民力の結集など、課題の解決や、活力ある地域の創出に結びつく事業を実施いたしております。

地域住民が参加する企画やアーティストがコミュニティに入り込む企画であるコミュニティプロジェクトや南郷の資源であるジャズとコンテンポラリーダンスを組み合わせたダンス公演を実施しています。

2 つめは、「工場アート 八戸工場大学」です。工場アートは、昨年度から実施しています。八戸に数多くある工場を地域資源と捉え、産業観光に結びつけるとともに、文化的側面からアプローチすることで、八戸の工場の新しい魅力を市内外に発信する試みです。

今年度は、八戸市内の工場群の全体像を掴むことを狙いとし、工場を多様な切り口で読み解く講座を実施し、継続的で開かれた市民活動の場である「八戸工場大学」を設置します。

3 つめは「まちなかアトリノベーション 福年ファクトリー」です。空き店舗を活用し建物のリノベーションだけでなく、文化活動そのものの在り方を変え、更なるブラッシュアップを目指す試みです。クリエイティブな活動をしたい人が集まる場、文化活動の担い手を育成する場を目指して実施します。

4 つめは、「山本さんち」プロジェクトです。南郷に引っ越してきたアーティスト山本耕一郎氏の「山本さんち」を地域の活動拠点に、年間を通じてアーティストと地域住民の協働で地域が抱えている問題と向き合い、新たな価値の創造を目指す活動を継続して実施する事業です。

5 つめは、美術館連携事業です。八戸市美術館特別展の開催期間中に、中心商店街で特別展に関連したイベントを開催することで文化の普及とまちなかの活性化を図るものです。

6 つめは、「芸術環境創造専門員」の採用です。全国のアーティストに精通し、アーティストとのネットワークも豊富で専門的知識を有する人を「芸術環境創造員」として採用しています。地域課題を「アート」の力を使って解決に導き、まちを魅力的に変えていくため、住民の思いを吸い上げ、アーティストと地域住民をつなぎ、事業をプロデュースし、スムーズな運営のための環境づくりをする役目を果たしています。平成 23 年度から採用しています。

## ●会長

はい、今までのところで何かご質問はありますでしょうか。主に「資料 2-3」の関連に

つきまして。

●●委員

質問ではないのですが、昨年、はっちで「八戸演劇祭」をやりまして、そこから生まれた若い人達の演劇集団が6月末に公演があるのですが、早速今日から福年ファクトリーの稽古場を使って練習に入るといことです。非常に助かっております。ありがとうございます。

●●委員

今は演劇だけなのですか。

●●委員

今とりあえずですが、今後は色々なことができると思います。

●会長

使用料はどうなっているのですか。減免ですか。電気代だけですか。

●事務局

今年度は実験的プロジェクトということもあって、使用料などはいただかずに、その活動の場をブランド化していくということで、色々な団体と連携していくということを考えています。

●会長

発表して、色々やって、ちょっと入ったら寄付をする。いいですね。

●●委員

助かります。

●会長

他に何かございませんか。

●●委員

「3-2」の八戸工場大学というのはちょっとイメージが分からないのですが、どうということなのでしょうか。

●事務局

去年は1日ツアーとシンポジウムというようにイベント的にやったのですが、今年はもうちょっと長い期間プロジェクトとしてやりたいということで、去年イベントに来ていた

だいた方と一緒に企画を考えて、八戸工場大学という名前でやります。座学とプロジェクトを考えておりました、座学は前期と後期に分けて3回ずつになります。最初はその工場を知るという形で行います。

●●委員

どこにその工場があるのですか。名前だけですか。工場大学というのが架空のものということですか。大学だけが架空なのかなと思っておりました。どこかの工場でそこでやっているのかなと思っていました。

●事務局

いえいえ、工場について学ぶ場、プラス工場を切り口にしたアートプロジェクトをやるという企画です。

●●委員

全国で何か所か工場を見学したり、八戸独自でそれをしたりするのですか。

●事務局

工場ツアーというよりも、もう少し工場について知って、工場を切り口にアートプロジェクトを仕掛けたいなという企画です。

●●委員

まだちょっとイメージがはっきりしませんが。

●会長

昨年は、いろんな工場を見て回ったのですよね。

●事務局

去年は八戸セメントさんとグレンターミナルさんを見させていただきました。

●●委員

それとアートがどう結び付くのがちょっと分からないのですが。

●事務局

ちょっとそこがなかなか結びつき難いので、アーティストの方を呼んでアイデアいただいて一緒に進めていきます。

●●委員

工場自体は面白いと思いますけれど、別に夜、サーチライトでやったりということでは

ないと思いますし。

●事務局

そうですね。この事業の際に、何かプロジェクトをやりたいと思っているのですが、そこをどうするか、その受講生や関わっていただいているアーティストの方とか、企画していただいている市民の方と一緒に詰めていきたいと思っています。

●事務局

少し補足します。八戸には臨海部にたくさんの工場があって工場群という形で注目を浴びているのですが、経済的側面だけではなく、例えば写真で撮ると凄く格好が良いとか、ものづくりの拠点であるという新たな側面もございます。そういった側面が八戸の価値・魅力になっていけるのではないかという切り口でアートプロジェクトをやろうというになりました。工場の方に講師になっていただいて「うちはこんな自慢がある」というお話を聞いたり、例えばですけれども、三菱製紙さんの作っている紙で紙を扱うアーティストが作品にするとどういうことになるか等、そういうワークショップやりながら、今年度の終着点としては、工場のことを扱う写真展やグッズのコレクション展といった、文化祭のようなことをやりたいなと思っています。ちょうど、会場になっている福年ファクトリーも、ファクトリーが工場なので、福年ファクトリーでの文化祭、工場大学のアートの文化祭を計画しているところです。

●会長

よろしいですか。あとは何かありますでしょうか。それでは次にいきましょう。

●八戸ポータルミュージアム

こちらははっちの今年度の事業説明をさせていただきます。

●会長

はい、お願いいたします。

●八戸ポータルミュージアム

それでははっちの説明をいたします。「資料2-4」と「資料2-5」をご覧くださいと思います。

改めてご説明申し上げますが、はっちは地域の資源を大事に思いながら、まちの新しい魅力を作り出すということを念頭において「会所場づくり」「貸館事業」「自主事業」の3つを柱とした事業を展開しております。その中で自主事業につきましては、「中心市街地の賑わい創出」「文化芸術活動の振興」「ものづくりの振興」、あとは「観光振興」の4つの基本方針に基づいて各種事業を展開してきております。開館以来、こうした事業を推進してきました結果、今年の5月には来館者数が200万人を突破しまして、中心街の歩行者通行

量や新規出店が増加傾向にある等、一定の効果があると考えております。

これまでのはっちの事業の性格としましては、中心街の活性化を大きなテーマとしておりますので、賑わいを創出することを主眼におく必要がありまして、常に新たな関心事を生み出すという考えから、シーズンイベントのような多くの来館者が楽しめる事業を展開してきました。一方で、集客だけにこだわらず、発信力があって市民の機運情勢に繋がることを意識したアーティスト・イン・レジデンス事業への取り組みも合わせて展開してきております。

これらの事業を推進するにあたりまして、はっちそのものが「まちを元気にするきっかけを生み出すプロジェクト」といえることから、最初のはっちの側から投げかけを行って、企画立案運営をはっちのスタッフが中心に行なうことが多い傾向にありました。開館からの2年間をはっちが中心街の一員として広く認知されるための基礎づくりの時期と捉えますと、これからの数年間は、はっちの効果を持続させながら、まちに集まる人々のコミュニケーションや創造力から、まちを動かす力を生み出すことにチャレンジする定着期と位置付けまして、大変重要な時期を迎えるものと考えております。

このことから、今年度からの数年間につきましては、はっちがこれまで担ってきた役割は継続し果たしつつも、より多様な主体の参加の促進や育成に力を入れて、市民自らの手によって中心街に関心を生み出して、中心街の活性化が図られていくように取り組んでいこうと考えております。

これらの状況を踏まえまして、今年度の自主事業について簡単にご説明いたします。このA3の縦の資料の一番目に「八戸ビューティ」とございます。こちらにつきましては「資料2-5」をご覧ください。こちらは当市の震災からの復興を対外的にアピールしまして、観光・サービス業の活性化や中心街の賑わい創出に寄与するとともに、市民のまちに対する誇りの醸成を図るため、「八戸ビューティ」という大きなテーマのもと、改めて八戸固有の多様な美を顕在化させて「より強い、より元気な、より美しい八戸」の姿を積極的に全国・世界に発信しながら、中心街の店舗や空間を「関心空間」に変えていく試みに着手するものでございます。事業の期間につきましては少なくとも今年度から最低2年間をかけて取り組んでいくことを考えてございます。

具体の事業内容でございますけれども、こちらにありますとおり(1)から(3)まで3つの柱となっております。1つ目の「HACHINOHE ショート・ストーリー」でございますけれども、こちらは多くの市民や八戸固有の美のエッセンスが登場する比較的短い映像を全国的な活動を展開している映像作家さんを招聘しまして、はっちにレジデンスしていただきながら、多数の映像を制作しまして、完成した作品をはっち館内や中心街でプロジェクトするとともに、Web上にアップしながら、中心街で関連事業を展開していくものでございます。

2つ目の「はちのへプロジェクション・マッピング・フェスティバル」。こちらの名前は正式に「はちのへライトショーフェスティバル」になりました。こちらは東京駅ですとか札幌雪祭り等で映像等で注目を浴びている「3D プロジェクトマッピング」という映像手法に着目しまして、八戸固有の素材を用いたマッピングの公募型フェスティバルを行うも



のでございます。全国的に、東京駅のような大きな建造物に投影する作品が多い中で、八戸ではまちなかの空き店舗等に展示して見て回る形式で実施いたします。中心街の賑わい創出と新進気鋭のクリエイターの発掘・育成を目的としておりまして、まさに八戸型のプロジェクト・マッピング・フェスティバルとしての定着を目指すものでございます。

3つ目の「市民が紡ぐBIG南部裂織市民プロジェクト」は、はっちりに来館した市民の皆さんに南部裂織の巨大な作品作りに関わっていただきまして、完成した作品は3周年の時期に展示するものでございます。

これら一連事業につきましては、会館3周年となります来年2月11日周辺に一同に展示・発信することにしておりまして、年間を通じて多くの市民を巻き込み、関心を高めながら展開してまいります。

最初のスケジュール表にまた戻っていただきたいと思っております。ここからは主な事業について簡単にご説明します。

「3) シーズンイベント」でございますが、こちら中心街の催しと連携しまして、季節を感じさせるようなイベント開催することで、中心街の賑わい創出を図ることを目的として行っております。今年度からは、ライブやギャラリーでの掲示など、新たに市民ホール枠を設けまして、これまであまり見えていなかったような、新しい市民活動の発掘に繋がりたいと考えております。早速来月に予定されている七夕につきましては、公募によって選定された、市内の若い女性が新たに結成した、演劇団体による演劇の公演と、市内のジャズバンドによる演奏の2企画を実施いたします。

「5) 和日カフェ」でございますけれど、こちらは誰もが日本文化に親しめる機会の創出と、着物での来場者を増やすことで、まちなかを華やかに演出することを目的におこなっている事業でございます。こちら昨年度から1日の企画全てを市民の方にプロデュースしていただく、市民プロデューサー企画を引き続き今年度も実施しております。

「6) モヨッテ参道」でございますけれども、こちらは中心街をハレの場と捉えまして、中心街をオシャレして出掛けたくなるようなイベントを実施したり、演出を施すことで、中心街の流行を再認識する事業でございます。こちらは昨日のデーリー東北と東奥日報にカラー写真入りで掲載されておりましたけれども、6月16日の日曜日に第1回目のモヨッテウォークのオープニングセレモニーを実施しております。昨年は、はっち側でコースの設定等を行って、参加者募って実施しておりましたけれども、今年度は市内モデルクラブのアンオリーブ所属のモデルの方々を中心に「まちなか女子目線委員会」を結成いたしまして、若い女性の視点でまちなかの気になるお店や面白い場所等取材して、彼女達が作ったコースをウォークのコースとしたり、最終的にはそうしたお店や場所の他、まちなかのここにこういうものがあればもっと若い女性が来たくるといった、提言的なものを含めたマップを作成することを想定しております。

次の「7) 横丁活性化事業」でございますけれども、こちらは昨年も実施した八戸横丁でショートパフォーマンスを繰り広げる「酔っ払いに愛を」の他、横丁の関係者が集まって「横丁パラダイス」と題しまして、横丁関連のイベントを10月に一体的に実施いたします。

「8) アートイベントプロデュース講座」は、昨年は入門編として実施しましたが、今年度は実践編としまして、一般公募の受講者が全員で実行委員会を組織して来年1月に音楽によるアートイベントを実践していくものでございます。

「9) ツールド八戸」は、はっちにレデジンスして創作活動をいただけるアーティストを昨年公募いたしました。そこで選定したアートユニットのポーワングさんによります、まちの特色とか不思議なところを探し出していくつかのサイクリングコースを作っていくアートプロジェクトになります。

「12) はっち市 2013」に関しましては、今年で3回目となりますけれども、県南地方では最大のクラフト市を市民関係者が実行委員会を組織しまして、11月22日から24日までの3日間、はっち全館を使って開催いたします。

「13) お祭り連携事業」は、三社大祭の時期にお祭りと連動したパネル展やワークショップを実施するものでございます。

「16) 市民活動支援事業」は市内で作品作りをしている個人や団体の活動の場を設けることで、市民に広く周知して文化力の向上を図るものでございます。またその市民主体の新しい取り組みを支援することも行ってございまして、例えば、昨年度、はっちのアーティスト・イン・レジデンス事業として行った、はっち流騎馬打毬ですけれども、こちらに参加した市民の方々が今年は自らの手で大人のロボコン大会を開催したいという提案を受けておりましたので、はっちでもそういった活動を支援していくことも行ってございます。

最後に「17) はっち新規ファン開拓事業」につきましましては、これまではっちの事業に関心のなかったOLですとか高校生等を巻き込む事業を想定しておりますが、現在実施している事業においても、先ほどのモヨツテ参道ですとか、酔っ払いに愛をなどで、企画段階から市民の方に参加いただいて、全体の方針はこちらで示すんですけれども、細部は市民主体で作り込んでいくような体制を取れないかということで検討して進めているところでございます。

これから数年間、これまで以上に市民力を結集した事業運営を意図的に行っていかなければならないと考えておりますが、はっちの事業展開や手法においては、これからは市民が関わる部分が比較的増えていくものと考えております。以上はっちについての説明は終わりです。

#### ●会長

ありがとうございました。「資料2-4」「資料2-5」について何かありますでしょうか。

#### ●●委員

今はっちの説明を聞きました。別件になりますが、最近是个々の小さい団体で申込みに行くと、会場を借りられないという声が多々事務局に来ておりますが、入れ込み状況がどういう状況なのかお伺いします。

それから、当初は借りる時にカードを作ったと思いますが、貸館の手続きをする際にカ

ードを持っているのに、希望の貸館日に行くと申込み用紙に全部書かされるということも聞きました。その点の手続きがどうなっているのか、簡素化されているのかを聞いておきたいと思います。

#### ●八戸ポータルミュージアム

会場のご使用につきましては、はっちが開館2年経過しましてから大分認知度が高まっております。市民の皆様からも非常に利用しやすい施設ということで大変需要が高まっております。最近が開館時から使っている方の他、新しい方もどんどん参加されて借りている状況もあります。それと、はっちの実施事業の兼ね合いもありまして、週末等のピーク時や人気のある時期は比較的取り難い状況になっております。そういう面では大変ご迷惑をお掛けしているのですけれども、予約が入っている時はなるべくお話しをお聞きした上で、こちらでも調整をしてキャンセルが出た時には対応する等の対応もしております。利用度が高まってきて逆になかなか予約が取れないということは大変申し訳ないとは思いますが、そういう事情もありまして、こちらでもなるべく問い合わせに対応を取っておりますので、よろしくお願ひします。

また、申込みの簡素化ですが、条例規則上、どうしても申込みの段階で申請書に「いつ・何時から・場所」それらを出していただいて、それを館長が決裁して承認するという手続きを取っております。最初の登録時点でカードをお作りいただくのですがそれとは別に、新たに申込みの際にはどうしても申込書を提出していただかなければならないということになります。こちらにつきましては申し訳ないですが、その都度出していただきたいと思っております。

#### ●●委員

そうですね。やはり申込書は書かなければならないということですね。

それと合わせてもうひとつ。公会堂では、申込みと同時に基本料金が分かればそこで即納するそうです。ところが、はっちさんの場合は、何回も用足ししに行かなければならないとか、振込用紙が来ないとか振り込めないとか色々なことがあると聞きました。もう少し事務的な改善はできないのかとの相談が私のところに来ております。今、即答はできないでしょうけれど、今後の検討課題にさせていただきたいと思ひます。

#### ●八戸ポータルミュージアム

空き状況について補足します。ギャラリーは2階と3階にもありまして、そちらは比較的空いていることが多くあります。展示だと1階の誰もが通る「ギャラリー1」をご利用されたいという方が非常に多くてそこにばかり集まっている状況です。2階や3階も入りますと、相乗効果でもっともお互いの作品も見えていただくこととなりますので、もしそういう場合は2階や3階もお薦めいただければ非常にありがたいと思ひます。手続きの件につきましては検討して改善して参りたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

●会長

はい、その他ありますか。

八戸ビューティ「～より強く、より美しく～」というのはサブタイトルですか。

●八戸ポータルミュージアム

このサブタイトルは市の復興計画にもあります。

●会長

そうですか。「より強く、より美しく」。「元気な」はいらないのかなという感じがしますが。

●八戸ポータルミュージアム

ここでは「元気」は敢えて入れなかったです。

●会長

入れなかったのですか。3行目では「元気」にわざわざかぎカッコをしていますね。こういうキャッチフレーズがあるにも関わらず、目の付けどころが美ですね。AIRというのは何ですか。

●八戸ポータルミュージアム

アーティスト・イン・レジデンス事業の頭文字をとっています。

●会長

ついていけないですね。他に何かありますか。なければ、美術館からお願いします。

●美術館

今日は口頭で説明いたします。美術館は、昭和61年11月にオープンしてからかなりの日々が経っておりまして、建物の方が最近何かと話題になっていますけれども、活動の中心は、いわゆる地域に密着した美術館を目指してということで、先人の作家と現代作家の作品を収蔵しております。これらの収蔵品を紹介するコレクション展、それから国内外の優れた美術作品を紹介する特別展等を開催して、皆様の鑑賞の場を提供するというのが1つの柱です。

もう一つは市民の発表の場ということで、市民ギャラリーの展示をおこなっております。それから学びの場ということで、各種講座や講演会を開催して、大人から子どもまで楽しめる美術館ということで、楽しみながら学ぶ場ということでそういった様々な教育普及活動に取り組んでおります。

その他、美術館がまちづくりとして、中心商店街との連携あるいは関係各課との連携によって、美術を通したまちの活性化ということにも取り組んでおります。

今年これから行う特別展のチラシを配布いたしました。「ジパング展～沸騰する日本の現代アート」と題しまして、7月13日から8月25日まで、ちょうど学校が夏休みに入る時期に合わせまして実施します。こちらの展覧会は、日本の現代美術の魅力が大変注目されておりまして、それを世界に向けて発信するとともに、日本人の魅力を深めていってほしいというメッセージを込めて企画されたものです。日本が世界に誇る日本の芸術、日本画を題材としてそれを現代風に表現した現代作家の作品です。アーティスト23名の作品が一同に紹介されるものです。今、注目されている現代アーティスト達が直にこちらに出品をして、期間中はアーティストトーク、ギャラリートークも実施する予定です。特に7月14日においでいただくと、会田誠さんという今、森美術館で個展をしています、「天才でごめんなさい」というもので、本も出されている方がおられます。瀬戸内の方で芸術祭に参加している時期で難しいといわれたのですが、瀬戸内の方から来ていただけるということで、是非、生の作家さんの声を聞ける良い機会だと思いますので、7月13日は、この企画者でもあるアートギャラリーのディレクターが全体を紹介します。こちらは作家本人が作品の前でギャラリートーク、あるいはこれまでの自分の作品を紹介するということになると思います。興味ある方は是非参加していただきたいとともに、宣伝していただければと思います。

現在、十和田現代美術館にも、フラワーという展示をしています。その中にもジパング展の作家が含まれています。更に青森県立美術館にも15日からオープンした展覧会にも何人かの作家さんの作品が出品されておりますので、この時期、青森県内が現代作家さんのアートで溢れる。青森と十和田と八戸が結んで観て歩くと楽しいと思います。それ以降の簡単なスケジュールをご説明します。先ほど、米内さんの方からご紹介いただきましたが、8月31日から9月23日まで写真家で北島敬三さんという方が被災地の三陸及び八戸を中心としました「種差 scenery 展」というのが開催されます。その期間中は、アーティストトークあるいはコンサート等も予定しておりますので、これらについては別途チラシ等で宣伝したいと思います。

それから、今年度種差が三陸復興国立公園に指定されましたことを記念しまして、9月28日から11月4日の秋口には東山魁夷の代表作である「道」の作品を展示しました、「道 - そして、希望の朝」という展覧会も予定しておりますのでお願いします。

#### ●会長

どうもありがとうございました。美術館関連と一緒に説明がありましたけれども、何かご質問はございますか。反応は良いですか。ジパング展。

#### ●美術館

会田誠さんのギャラリートークはもうだいぶ埋まってきました。30名という限定ですのでお早めにどうぞ。

#### ●会長

そうですか。反乱が起きますね。お得情報もいいですね。こういうことをやり始めたらすごく良いですよ。500 円を払って観て、サービスがある。こういう色々なタイアップ事業を仕掛けていくのは面白いかもしれない。誰が考えるのですか。

●美術館

これは、美術館とまちづくり文化推進室の連携企画で、2年前からやっておりますけれども、だんだんと協力店舗さんが増えておりまして、去年は31店舗、今年は37店舗のご協力をいただきました。

●会長

これはお店側で「私どもの店ではジパング展を支援しています」とか何かのステッカーはあるのですか。

●美術館

ポスターを掲示していただいております。

●会長

まさにアートのまちづくりの基本的なことですよ。はい、ありがとうございました。それでは次は公会堂関連をお願いします。

●公会堂

時間が押しているような感じですので簡単に説明いたします。資料の中に今年度の公会堂、公民館、南郷文化ホールの文化事業の一覧のリーフレットを提示させていただいております。すでに実施済みのものもございますけど、市の主催事業、自主事業、共催事業等を合わせました34の事業を紹介してございます。

主なものとしたしましては7月9日の松竹大歌舞伎、7月12日のマンハッタン・ジャズ・クインテット、9月10日の宝塚歌劇雪組の公演、公会堂はそのようなものがございます。そして公民館では、7月9日からスタートいたしますけれども、夏までの第2第4火曜日に「南部昔語り部講座」というものを始めます。そして1月11日に公民館演劇塾、去年から始まっておりますけれども、その塾生の最後の発表の場といたしまして、「うみねこ演劇塾」の公演を計画してございます。

南郷のホールでは定番となりましたジャズの3本のコンサート「ジャズパーティー」「ジュニアジャズコンサート」「ジャズ交流演奏会」、これらを平成21年度から継続してやっております。その他に9月1日に昨年からはじめました、現代ダンス活性化事業、今年度は活性化支援事業になりますけれども、今年は舞踏カンパニー大駱駝艦の田村一行さんの公演を計画してございます。

それぞれの内容につきましては簡単に説明が書いてございますので、ご覧いただければ分かると思います。

それと、リーフレットの印刷が終わってから決まりましたもので、掲載されておられませんけれども、南郷アートプロジェクト事業、そして南郷名画座事業、これらの中身が固まりつつありまして進んでございます。特に南郷アートプロジェクトに関しては、大澤専門員が専門ですので、私からの説明は控えますけれど、南郷名画座は8月と12月に開催することに決まりました。8月は「壬生義士伝」、そしてもう一本が高知でのロケも入っております「愛と死」、栗原小巻さん、新克利さんの映画になります。そして12月は女優シリーズということで、山本富士子さん、岸恵子さん、佐久間良子さん、岩下志麻さんの日本の女優それぞれの主演作品を上映することとなっております。

それから、先々週あたりに出てきまして、急遽話しを進めておりますけれども、NHKの「あまちゃん」の音楽を担当している大友良英さんのバンド「あまちゃんスペシャルビッグバンド」のコンサートを東北、福島・宮城・岩手・青森でそれぞれやりたいということで、八戸はどうでしょうということで、10月3日に開催することが決定いたしました。編成が15～16人ということで曲目は、今テレビで流れているBGM等が演奏される予定となっております。これに関しては来週打ち合わせしたいと思っております。

以上で簡単ではございますが、説明を終わります。

#### ●会長

はい、ありがとうございました。何かご質問・ご意見ございますか。長いスケジュールでした。よろしいでしょうか。時間もだんだん少なくなってきました。これで最後ですね。今年度の補助金の審査についてよろしくお願ひします。

#### ●事務局

最後に、平成25年度多文化都市八戸推進事業補助金の審査についてご説明いたします。

さきほど簡単にご説明いたしました多文化都市八戸推進事業補助金ですが、4月中旬から5月末まで公募いたしまして、5件の申請をいただいております。この5件について委員の皆様から審査いただきます。資料3-6が採点票になっております。審査基準は、7項目、先駆性、実験性、独創性、実現性、発展性、計画性、公益性となっております。

本日、各事業の採点をするのは難しいと思っておりますので、事業の概要を説明いたしますので、一旦持ち帰って頂き、1週間後の6月26日までにまちづくり文化推進室までご提出いただきたいと思います。

申請書についてご説明します。1枚目が申請書の表紙、2枚目が団体の場合、団体の概要、3枚目に事業の目的、内容、特徴になりますが、先ほどご説明しました7つの項目について、申請者からの説明が記載してあります。

資料3-1をご覧ください。始めに「Dance×Dance×Dance」の概要をお知らせします。

主催は、昆賀子モダンダンススタジオです。はっちのシアター2において、3月22日から23日にかけて開催予定です。八戸市内外の小中学生、高校生、大学生、一般のダンサーと舞台の裏方を公募し、各ジャンルの指導者の協力のもと、舞台を作っていく試みです。技術指導者はすべてボランティアとのことです。所属するダンス教室やダンスのジャンル

という垣根を越えて活動する場を作り、異なるジャンルのダンスから刺激を受け、学ぶことができる内容になっております。

また、舞台技術を学び、実際に舞台を作ることで、芸術文化活動をプロデュースする人材を発掘・育成するきっかけとなる内容となっています。

今年で10回目の開催ですが、今年度は、ただ単にダンスを披露する場でなく、作品のテーマについて事業に関わる人でディスカッションすることで芸術性の高い作品を目指すこと、過去にこの事業に出演し練習を重ね市外で活躍しているダンサーに出演してもらうことで、八戸市内でも活躍できる機会を作ることに重点を置いた内容となっています。横浜ダンスコレクション新人部門で入賞した方や劇団四季所属ダンサー、バレエ教師など、八戸出身で県外で活躍している方々がゲストとして今回出演予定とのことです。

次に資料3-2をご覧ください。「VIVA!BOSSA!!10 in 南郷～こどもからおとな あそんでまなぶ～」の概要をお知らせします。主催は、VIVA!BOSSA!!実行委員会です。南郷文化ホールと南郷図書館、ホール前の広場において、9月8日に開催予定です。太陽、星、月など宇宙をテーマに、ホールでの天体ショーと生演奏、写真展、アート雑貨やフードの青空市、太陽光発電実験など、南郷文化ホールとその周辺を一体的に活用するイベントとなっております。

音響や照明、映像、舞台などホールの設備を利用して、宇宙空間を演出し、南郷文化ホールを天体ショーとして利用する斬新な企画になっています。また、舞台をパフォーマンスの場として利用するという枠を取り、新しい使い方を模索している点が実験性も高い企画であると思われます。

次に資料3-3をご覧ください。「海猫噴火祭ー響き・つなぐ。今を奏でる音楽と方言文学の宴」の概要をお知らせします。主催は、素浪人プロジェクトです。市川のツリーサイド スローベースにおいて、9月8日に開催予定です。

アイリッシュミュージックの要素を取り入れた民族音楽の生演奏と相澤史郎（しろう）の作品の南部弁による朗読の共演となっています。「海猫ツリーハウス」で第33回すばる文学賞を受賞した八戸市出身の木村友祐（ゆうすけ）氏のプロデュースで、小説と音楽と方言詩の共演により、小説のテーマでもある「東北の復権」をさぐる内容となっています。

資料3-4をご覧ください。「今、蘇る、雅日本の響き～音の科学者モーツァルト、日本の響きを語る！～」の概要を説明します。主催は、諏訪内昌子氏です。八戸市公民館ホールにて、3月14日に開催予定です。

モーツァルトの作品と日本のピアノ曲・日本唱歌・童謡のピアノ演奏を通じてその相似点と美しさを映像や朗読、ナレーションを交えて表現、解説する内容となっています。日本語とクラシック音楽の作曲家モーツァルトの作品を比較することで、そこに共通するものを見出し、日本語の美しさ、日本の良さを再認識するきっかけとなる事業となっています。演奏を通して、両者の共通性をさぐる点が実験性の高い企画であると思われます。

資料3-5をご覧ください。「モザイクアートによるまちづくり」の概要を説明します。主催は、アートのまち・はちのへを推進する会です。6月から9月のはちのへホコテンにて実施予定です。



9月29日のはちのへホコテンにおいて、モザイクアートの制作をするというのですが、6月と8月のホコテン会場にて来場者から八戸市のイメージやまちなかのイメージを募り、それをもとに、アーティストの原田ミドー氏がデザインをし、参加者がタイルを貼るという内容になっています。単にアーティストがデザインし作品を作るというのではなく、多くの市民のイメージを聞き取ったものをアーティストが吸い上げ、作品と一緒に作り上げるものとなっています。

八戸市民が抱く八戸のイメージを写真や絵ではなく、「モザイク」というアートで表現することで独創性が高い企画となっております。

以上、各事業の概要を説明しましたが、ここで採点するのは難しいと思いますので、一度持ち帰って頂き、採点票にご記入の上、6月26日まで、まちづくり文化推進室に提出いただきたいと思います。委員の皆様の審査をもとに、交付決定いたします。ご質問あればお受けします。

●●委員

5番の企画は観光コンベンション協会ですか。

●事務局

アートのまち・はちのへを推進する会というのもありまして、団体概要と会員の名前があります。

●●委員

会員名簿を見ているのですが、●●さんは「山に鳥」の「嶋」ですか、ただの「島」ですか、●●さんの名前。

●●委員

これで合っています。

●会長

こういう会ができたんですね。

●●委員

3年くらい前から活動しています。

●会長

これはできあがったのをくれるのですか。どこかに飾るのですか。

●●委員

どこに飾るかはまだ決めていないようです。

●会長

とりあえず、アーティストの方に作っていただくということですね。予算が非常に少ない。とりあえず、5団体がありましたので、一応、物が物ですので、取り扱い注意ということで、何かありましたら事務局を通して、FAXで6月26日までに点数をつけていただければと思います。何かご質問はございますか。

●●委員

さきほど、●●委員が言っていたのですが、例えばこの5人が一定の基準をクリアしていた場合は30万円を5で割るということですか。

●事務局

昨年のケースだと傾斜配分にしておりました。例えば皆さんの得点が高い方はちょっと高くして、高いところで96,000円、低いところで54,000円でした。

●会長

総費用の部分で結構差がありますね。

●●委員

皆さん、総費用より相当少なくしかいただけないので、来年度はもうちょっと予算をつける必要があるのではないですか。そうはいかないのですか。おかしいと思います。

●●委員

だから私も30万から40万に増額できないのかと言ったのです。5万ぐらいだとちょっとね。

●●委員

1人300,000円ならまだ分かりますけれど、とてもじゃないけれど1回コンサートしたって100万円以上かかりますよ。

●事務局

会場使用料というのも減免して、施設使用料も0円にしているので、そういった点で見ると、何も無い状態よりはましだと思います。

●●委員

単純に傾斜配分をやると、最後のところなんかは減免ない訳ですよ。可哀想ではないですか。その辺はどう考えますか。

●事務局

これは、どちらかという補助金の制度ですので、会場の減免については、市が所有している施設でやる場合にはその分は市が負担します。

●●委員

もしも市の施設でないところでやるという人がいたら可哀想な気がしますね。

●●委員

私は全部素晴らしいと思います。全部満点にしたいと思いますが、そういう場合はどうしたらいいのですか。お任せしますということですか。

●●委員

企画の段階で決めなければいけない、結果を見てからであれば簡単だと思うのですが。

●●委員

これでどこも10点満点だったら、30万円を5で割って6万円ということになります。でもそうはいかないですよ。去年は傾斜配分をやっていますし。

それと、今回の申請書の収支予算表を見ると、それほど高額な団体は出ていないですね。去年は100万円以上の団体がいましたが、出たのは8万から9万ですよ。

●会長

人を招聘しましたから規模が大きかったのです。

●●委員

計画の中にはこれはちょっと高いなというところもあるので、これがどうしてこんなにかかるのだろうかと思うものもありますね。だから結果を見てたくさん付けたのに結果があまり良くなかったというのもこれから出てくるかも分かりませんね。でもそれはしっかりと厳しく。出た結果に対して、どう使われたかということを見ていく。

●会長

私は長い期間やっているのでだんだんと点数が辛くなっています。●●のように、基本は自分達でやる、それを行政がサポートするのは元々の考え方。これを持ってして何かということではないのを前提にして、独り立ちためのステップみたいなものですね。それで活動していただいて、もし収益が何らかの形で入ったら寄付かファンドか何かにしていけばいいのではないかと思います。これは税金を投下しているということですから、そこを十分ご理解してもらわないといけません。税金の使い方として聞かれる可能性があるので。傾斜配分は難しいと思いますね。審査している我々は当事者ではないので。いずれにしてもやる前なので結果はまだ分かりません。とりあえず皆さんの結果をいただいて、

その後考えることにしましょう。

●●委員

独創性となっていて面白そうだと思っても、結果がひどいってこともあると思いますね。その辺のギャップが感じられないので難しいですね。出てからだったら分かると思うのですが。書いているものがすごく素晴らしくても、出た結果が悪ければ悪いと言われますし、結果が良ければ誰でもたくさん出すとは思いますが。そこら辺が寄付でいいのかどうか。

●会長

作文の能力ですね。2回3回と出すとだんだん上手くなるものです。

●●委員

独創性は本当にあるとは思いますが。

●会長

最初に話したように、終わった段階で意見を聞くとか、そういうやり取りの場があるといいと思います。報告書はこちらで見えていますから。そろそろそういうところも必要ではないかと思えますね。

●●委員

見た結果をチェックしていく必要はあると思います。

●●委員

写真付きの何か報告書みたいなものですね。

●●委員

そうですね。

●会長

一応の報告はあるのですが、あるいは●●委員が直接そこへ行ってご覧になるとか。行ければいいですね。

●●委員

直接なるべく手分けして行ってみるのがいいですね。

●会長

いずれにしてもそういう形で今回補助金の対象になった方々の報告と、それから、もし可能であれば2年目以降の改善に向けて話し合いとか意見を交換できる場があればいい

と思います。その辺も含めて事務局で検討していただいて、我々もまたアイデアを出したいと思います。

その他これに関して何かございますか。

#### ●●委員

これではなく全体的なことです。私はここへ来る前に会長から出していただいた提案書をもう一度読みました。とても丁寧な提案書になっていて、行政の取り組みも随分生真面目な取り組みをしているのですが、ただこういった私たちがやっていることが全く知られてないところがあります。例えば、ライオンズクラブとか商工会議所では全く知らない人もいます。そこでどうにかしてそういう発言力のある方々にこういった取り組みを知らせていった方が、早く一般の方々にも浸透するのかなと思います。

#### ●会長

ありがとうございます。

#### ●●委員

そういう意味で今回のアートのまちに●●さんにも申請を上げてもらったのです。これに申請を上げるということで、この間の総会の時に話しをしています。こういうのがあって、補助金が付くので、これに申込みをしますと。このイベントを申請して、ここで議論をしてもらうというのは敢えて言っています。●●さんのものを除くと、この3～4年で出て来た人のものばかりなのです。他の4件は過去に上がってきた人ですし、もちろん毎年上がっている人もいるし、一部の人が慣れてきているだけで広がっていないのではないかなと感じていたので、表に出すことを考えないともったいないのではないかと思います。

#### ●●委員

内輪で満足していますよね。広げないと意味がないです。

#### ●●委員

そういう意味で、自分達も勉強しなければならないので、番組にしようと思っていました。その番組の中で毎週組み合わせながら表に出していかないと分からない。ラジオで放送するのが目的ではなくて、そこにまたいろんな人に出てもらいながら外に広げるということを考えなければならないと思います。

#### ●会長

それは今後も含めて大きな課題です。生涯学習というものが出てきた時に、個人の教養だけが高まって行って、その教養を持って天国へ行ってしまって下に広がらなかったということがありました。やはりもっと還元すべきだし、税金を使うというのはそういうことだと思います。

●●委員

それからもう一つ、ちょうど商工会議所さんのことを出してくれたのですが、メセナと  
いうか、税金と企業をタイアップして、皆に還元できる形がほしいなという気がします。

●会長

そうですね。ではそれをきっかけにして、以後、ありますか。決まった時にプレス発表  
しますか。

●事務局

各イベント、広報しています。

●会長

だからこれに関して特化した形で新聞等にプレス発表すると、「アレ？」ということになる。  
つまり繰り上げのニュース番組として取り上げられるかもしれません。ついでに BeFM  
でも取り上げてもらうといいのではないのでしょうか。何もやらないよりはやってみて反省  
した方がいいと思います。それはまた後でまた考えましょう。米内委員からとてもいいご  
指摘がありましたので、そのところは以後の課題にしたいと思います。

いかがでしょうか。何かございますか。全体を通して、今、米内委員からそういう話し  
がありましたけど、何かございますか。あるいは今ここで周知するようなことがあればど  
うぞお話してください。宣伝を含めて何かありましたらご紹介をしていただきたいです。

●●委員

7月20日から「90周年はちのへ童話会」「森のおとぎ会」が始まります。19日に、式典  
と祝賀会を開催します。ちょうど節目の年でこれから100周年に向かって頑張らなければ  
ならないという動きがあります。以上です。

●会長

はい、どうもありがとうございました。それでは、次回の予定について事務局から願  
いします。

●事務局

次回の会議は、9月下旬から10月上旬を予定しておりますが、日時や場所については、  
後日改めてご案内いたします。委員の皆様にはご多忙のところ恐縮ですが、ご協力頂けま  
すよう、お願いいたします。

それでは、これもちまして本日の会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。